



骨粗しょう症便り Vo.23

人工関節手術における骨粗鬆症治療の意義

人工関節手術を受ける方は年々増えていますが、術前患者の 24.8%が骨粗鬆症、38.5%が骨量減少と報告されています (Xiao 2022)。

また術前に骨粗鬆症と診断されたにも関わらず、治療を受けていた患者は 32.9%と少なく、特に人工膝関節手術 (TKA) では治療実施率がわずか 15.1%であったと報告されています (Ha 2020)。

・ 骨粗鬆症が人工関節に与える影響

骨が弱いと人工関節手術中の骨折リスクが高まり、インプラントの固定が不安定になる可能性があります。また、術後の転倒により人工関節周囲骨折が発生することもあります。

人工関節周囲骨折・TKA

- TKAの術中関節周囲骨折の発生率：**0.2～4.4%** ■ Purudappa, 2020; ■ Young, 2018
- 術後骨折の発生率（術後2年間）：**0.2～0.6%** ■ Albright, 2023



■ Binkley, Neil, Brian Nickel, and Paul A. Anderson. "Periprosthetic fractures: an unrecognized osteoporosis crisis." Osteoporosis International 34.6 (2023): 1055-1064.

さらに、人工関節自体は長期間使用可能ですが、周囲の骨が弱くなるとゆるみのリスクが高くなり再置換率が高くなります。

・人工関節手術における骨粗鬆症治療の効果

骨強度が高くなることで、術中骨折のリスクが低くなり、インプラントもしっかり固定されることで、術後のゆるみが発生しにくくなるため再置換率が下がります。

また、術後のちょっとした転倒でも人工関節周囲骨折が起こりにくくなります

**人工関節手術の術後成績を高めるためには
骨粗鬆症のスクリーニング検査を受け
骨粗鬆症と診断されたなら適切な治療を受ける
ことが大切です**



社会医療法人美杉会
男山病院 整形外科

八幡市男山泉19
☎075-983-0001(代表)
<http://misugikai.jp/otokoyama/>